

町指定文化財(彫刻)

「十一面観音立像」
(鉦彫り観音像)

ななほ

指定年月日/昭和四二年一月二四日
所在地/城里町上入野
管理・所有者/小松寺



▲十一面観音立像(鉦彫り観音像)上半身部

町指定文化財「十一面観音立像」は、白雲山普明院小松寺境内に建つ観音堂(町指定文化財)の本尊です。
一木造り(頭軀部を一本の木材から彫り出す技法)・素地・彫眼の彫像で、胸元には横方向に力強い丸鑿の跡が認められます。いわゆる「鉦彫」の技法で製作された、像高二メートルを超える堂々とした観音菩薩像です。

製作年代は、平安時代後期から鎌倉時代初期と考えられています。像は全体に虫害や磨滅が激しく、両腕も一部が欠失しています。両足先や光背は、後世に補われたものです。現状では十一面観音としての特徴を認めることは困難ですが、寺伝では、天平一七(七四五)年に白雲山山頂に建立された御堂(普明院)に、本尊として祀られた十一面観音像とされています。

普段は観音堂内に祀られています。元日早朝の三時と五時の護摩修法に参加すると、間近で拝観することができます。

解説文/町文化財保護審議会長小山映一

問合せ 教育委員会事務局

☎029-1288-3135

俳句

百合の花太平洋の見える窓
瀬谷 博子
刃に触れてばしり割れ入る西瓜なり
中野 千賀子
独り居の恙無く在り心太
今瀬 多代美
山百合や石垣のみの閑所跡
綿引 英子
麦秋や鉄路は遠くまで見えて
飯田 勇一
旧道へ逸れるバスなり合歓の花
竹内 幸子

文芸しろさと

短歌

亡き姉の思ひ出語る友もな
く昭和は遠く空のかなたに
島 愛子
葉桜の木陰求めて汗を拭き
猛暑に負けず友と球打つ
信田 育子
年月は留まることなく八十路
過ぐ友も吾等も心して生く
富田 佐智子
白内障の手術日決り今より
は視力回復期待して待つ
萩谷 登喜子
入院の夫を見舞いて帰るとき
遠い窓から手を振る切なき
菌部 光子

遙かなるものに目をやり夏の果て
田口 勝元
もの言わぬ夫の貫禄墓洗ふ
仲田 まちゑ



川柳

孫ひこの親切盆玉狙いかも
富田 多蔵
猛暑日は朝から気になる救急車
車田 綾子
暑い夏熱いあついでもうあきが?
飯村 孝一
甲子園負けて涙の砂集め
川原 清



扇風機作られ風に癒されて
三十八度を生きぬいている
富田 欽子
掘り進む土の中から見えるのは
待ってましたと新じゃがの顔
矢次 洋平

企画展『憧れの欧米への旅 竹久夢二展』

“夢二式美人”で大正時代に一世を風靡した竹久夢二。肉筆の美人画をはじめ、雑誌の挿絵や本の装幀、海外でのスケッチ等、多彩な作品を展示します。

開催期間 9月7日(土)~10月27日(日)
※休館日/9月9日(月)、24日(火)、10月15日(火)、21日(月)

開館時間 午前9時30分~午後5時

※最終入館は午後4時30分まで

問合せ 茨城県近代美術館 ☎029-243-5111